

明治グループの新型コロナウイルス感染症への対応

明治グループは、新型コロナウイルス感染症に対してさまざまな取り組みを行っています。

- お客さまに対して
 - ・生活に必要な食品や医薬品を製造するメーカーとしての供給責任を果たすべく、国内外の全ての工場生産活動を続けています。
- お取引先に対して
 - ・お客様への商品供給のため、原料を供給していただくサプライヤーや販売していただく卸売業や小売業の皆様と連携を強化させていただいております。
- 従業員に対して
 - ・従業員とその家族の安全のため、極力テレワークや時差出勤などとし、感染防止に努めています。なお、オフィス系の事務所においては、出勤率を概ね50%以下とするようにしております。
 - ・工場での生産や商品供給に関わる従業員については、マニュアルに従って衛生管理を徹底し、安全な労働環境の整備を行った上で業務を行っています。
- 地域社会に対して
 - ・フードバンク団体や医療機関などへの製品の寄贈などを通じて継続的に支援をしております。
- 株主・投資家に対して
 - ・適切な情報開示に努め、業績に大きな影響が発生する場合は速やかに開示します。また、財務の安全性に配慮しながら計画の遂行に努めてまいります。

新型コロナウイルスワクチンの開発と供給に向けて、以下の通り取り組みを進めています。

- KMバイオロジクスの不活化ワクチン[※]開発状況
 - ・当社の事業子会社であるKMバイオロジクス株式会社では、新型コロナウイルス感染症に対する不活化ワクチンの開発を進めています。2020年9月には非臨床試験を開始し、2021年3月より国内第1／2相臨床試験、同年10月より第2／3相臨床試験を開始しました。加えて、この不活化ワクチンを、国内に2022年度中に供給すべく、生産に必要な設備の整備も進めています。
※不活化ワクチンとは、大量に培養されたウイルスや細菌からウイルス粒子や細菌の菌体を集めて精製した後、加熱やホルマリン等の薬剤を用いて処理をし、感染力や毒力をなくした病原体やその成分で作ったワクチンです。
- アストラゼネカ社のウィルスベクターワクチンの製剤化と国内供給に関する協業
 - ・2020年6月に、Meiji Seika ファルマとKMバイオロジクスは、アストラゼネカ株式会社が日本に導入する新型コロナウイルスワクチンについて、国内安定供給に向けた協議を進めることに合意しました。2021年3月には、KMバイオロジクスはアストラゼネカ株式会社から供給された原液の製剤化を開始し、同年8月からは、Meiji Seika ファルマが同ワクチンの保管・配送。安全性情報収集の業務を開始しました。

以上